

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3146743号
(U3146743)

(45) 発行日 平成20年11月27日(2008.11.27)

(24) 登録日 平成20年11月5日(2008.11.5)

(51) Int.Cl.
A 4 5 C 13/00 (2006.01)F 1
A 4 5 C 13/00 J

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6552 (U2008-6552)
(22) 出願日 平成20年9月17日(2008.9.17)(73) 実用新案権者 502019612
有限会社コムテック
東京都武蔵野市御殿山1丁目3番9号
(74) 代理人 230100022
弁護士 山田 勝重
(74) 代理人 230100055
弁護士 山田 克巳
(74) 代理人 230100011
弁護士 山田 博重
(74) 代理人 100084319
弁護士 山田 智重
(72) 考案者 廣田 正明
東京都武蔵野市御殿山1-3-9 御殿山フ
ラット1F 有限会社コムテック内

(54) 【考案の名称】 小物入れ

(57) 【要約】

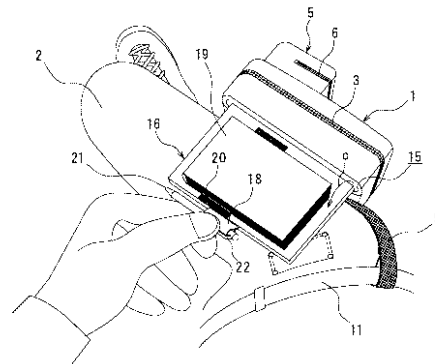
【課題】

人体の下肢における股部外側に取付けられ、内部に被収納物を収納可能となる小物入れにおいて、その利便性を向上させることを目的とする。

【解決手段】

小物入れは、人体の下肢における股部2の外側に取付けられ、内部に被収納物を収納可能とされる。この小物入れに係る小物入れ本体1は、股部2に対する取付状態において、股部2の前面側に開口されるポケット部15が備えられ、該ポケット部15には股部前面側に矢印Cに示すように引き出し自在とされ、かつ股部前面側への非引き出し状態においてポケット部15内に収納可能な板状体16が備えられる。板状体16の表面にはメモホルダ20に取着されるメモ帳19が備えられる。

【選択図】 図7



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

人体の下肢における股部外側に取付けられ、内部に被収納物を収納可能としてなる小物入れにおいて、小物入れ本体における股部に対する取付状態において、股部前面側に開口されるポケット部と、該ポケット部内に取付けられ、股部前面側に引き出し自在とされ、かつ股部前面側への非引き出し状態においてポケット部内に収納可能な板状体と、を備えることを特徴とする小物入れ。

【請求項 2】

板状体の表面には、メモ帳を取着可能とするメモホルダを備えることとしてなる請求項 1 に記載の小物入れ。

【請求項 3】

板状体には、ボールペン、鉛筆などの筆記具を止着するペンホルダを備えることとした請求項 1 または 2 のいずれかに記載の小物入れ。

【請求項 4】

板状体の表面には、小型コンピュータを取着可能とする取付ホルダを備えることとしてなる請求項 1 に記載の小物入れ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、レスキュー隊員、海上保安官、自衛隊員などがもっぱら野外活動において使用し、内部に被収納物を収納可能としてなる小物入れに関する。

【背景技術】

【0002】

レスキュー隊員、海上保安官、自衛隊員などにおいては、救助活動、災害活動などの野外活動の局面において、薬品、包帯などの医療用品、地図、海図、活動記録などの書類、細引き、無線機器、懐中電灯などの様々な携帯具を内部に収納するための小物入れが使用される。小物入れには、隊員が背負う背のうタイプのもの、ベルトに取付けるセカンドバックタイプのものがあるが、比較的小さな小物類を収納するタイプのものとして、人体の下肢における股部外側に取付けられるタイプの通称レッグホルダと呼ばれる小物入れが多く用いられている。

【0003】

このタイプの小物入れは、人体の上半身に取付けられる背のうタイプのものに比べて隊員の身体の動きに制約を加えることもなく、身体を比較的自由に動かせるため、多く利用されている。

【特許文献 1】特開平 8 - 1 9 4 1 5 号

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、こうした小物入れを使用する隊員においては、最近コンプライアンスの面から逐一その活動を記録することが求められ、従来そうした活動記録は小物入れに収納されるメモ帳と筆記具を隊員が該小物入れより取出して行ったり、あるいは P D A と呼ばれる小型コンピュータを小物入れから取り出し、例えば P D A の液晶画面にペン入力することにより行っていた。

【0005】

しかしながら、隊員が野外の災害現場、救助現場において、いちいち小物入れからメモ帳や P D A を取出し、記録するのは面倒とされ、こうした現場において隊員が使用し易く、使い勝手のよい小物入れの提供が期待されている。

【0006】

本考案は上記の点に鑑みてなされたものであり、人体の下肢における股部外側に取付けら

10

20

30

40

50

れ、内部に被収納物を収納可能としてなる小物入れにおいて、その利便性を向上させることを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本考案は、人体の下肢における股部外側に取付けられ、内部に被収納物を収納可能としてなる小物入れにおいて、小物入れ本体における股部に対する取付状態において、股部前面側に開口されるポケット部と、該ポケット部内に取付けられ、股部前面側に引き出し自在とされ、かつ股部前面側への非引き出し状態においてポケット部内に収納可能な板状体と、を備えることとしたものである。

【0008】

また板状体の表面には、メモ帳を取着可能とするメモホルダを備えることとしたものである。

【0009】

また板状体には、ボールペン、鉛筆などの筆記具を止着するペンホルダを備えることとしたものである。

【0010】

さらに板状体の表面には、小型コンピュータを取着可能とする取付ホルダーを備えることとしたものである

【考案の効果】

【0011】

本考案によれば、小物入れ本体における股部に対する取付状態において、股部前面側に開口されるポケット部と、該ポケット部内に取付けられ、股部前面側に引き出し自在とされ、かつ股部前面側への非引き出し状態においてポケット部内に収納可能な板状体と、を備えることとし、例えばこの板状体にメモ帳を取着可能とするメモホルダを備え、あるいは小型コンピュータを取着可能とする取着ホルダを備えることとし、野外において板状体をポケット部から引き出し、これに取着されるメモ帳や小型コンピュータにおいて活動記録を行うことができる。すなわち、こうした記録を行う際、メモ帳や小型コンピュータは股部前面側に引き出される板状体の表面に備えられるため、使用者においては股部上でこうした記録を行うことができるので慌ただしい野外活動において極めて便利に記録作業を行うことが可能となる。この結果、人体の下肢における股部外側に取付けられ、内部に被

【考案を実施するための最良の形態】

【0012】

実施形態に係る小物入れは、図1に示すように人体の下肢における股部2の外側に取付けられるものとされる。すなわちこの小物入れは、図2あるいは図3に示すように全体直方体形状のものとされ、全体を布材、合成皮革材等で形成される。小物入れは、小物入れ本体1においてファスナー3の引き手4を図2の矢印A方向に引くことにより内部を開け、該内部に医療用品、書類、携帯具など様々な被収納物を収納可能としている。

【0013】

さらに小物入れ本体1には外側に小袋部5が備えられ、この部分のファスナー6の引き手7についても図2の矢印B方向に引くことにより内部を開け、該内部に様々な小物類を収納可能にしている。なお、小袋部5の外側には反射テープ8が取着され、小物入れを取付けた人にライトの光が当たった場合にこの部分を反射させるようにしている。

【0014】

小物入れには、小物入れ本体1の内側において、小物入れを人体の下肢における股部2に取付けるための取付バンド9および取付バンド10が備えられる。取付バンド9は、小物入れ本体1の内側上方にその端部が縫合され（図3参照）、全体ループ状をなし、小物入れを取付ける人が装着する腰ベルト11に対して掛け回すようにしている（図1参照）。すなわち、取付ベルト9は、ループ状をなす各端部にバックル状の係合体12A、12

10

20

30

40

50

Bを備えてなり、腰ベルト11に対して掛け回された取付ベルト9の雌雄一对をなす係合体12A（雄係合体）と係合体12B（雌係合体）とを相互に係合することにより、小物入れ本体1を腰ベルト11に対して取付けることを可能にしている。

【0015】

さらに小物入れ本体1の内側において備えられる取付バンド10は、図3に示すように小物入れ本体1の内側に縫着される挿通部13に挿通されて支持され、股部2に対して水平方向に巻き回される状態で取付けられる全体ループ状をなす（図1参照）。すなわち、取付ベルト10も、ループ状をなす各端部にバックル状の係合体14A、14Bを備えてなり、図1に示すように股部2に対して巻き回された取付ベルト10の雌雄一对をなす係合体14A（雄係合体）と係合体14B（雌係合体）とを相互に係合することにより、前記取付ベルト9とともに、小物入れ本体1を股部2の外側に対して取付けることが可能となる（図1参照）。

【0016】

こうして取付ベルト9および取付ベルト10により、人体の下肢における股部2の外側に取付けられる小物入れ本体1には、股部2に対する取付状態において小物入れ本体1の内側に、股部2の前面側に開口されるポケット部15が備えられる。このポケット部15内には、内部に板紙あるいは合成樹脂製のボード材が収容され、これを布材等で被包してなる板状体16が収納され、該板状体16は図15に示すように一端部がポケット部15内の最奥部に縫合される伸縮布材体17の前端部に縫合される（図5参照）。

【0017】

板状体16にはポケット部15に対する収納状態において、図2に示すようにポケット部15より突出する状態で把持片18がその前端部に備えられる。該把持片18は上下に貫通する筒状のものとされる。板状体16はこの把持片18を把持するようにしてポケット部15より矢印C方向に引き出し自在とされ（図4参照）、かつ図3のように非引き出し状態においてポケット部15内に収納可能とされる。

【0018】

引き出される板状体16の表面には、図4に示すようにメモ帳19の基端部を矢印D方向に挿入し、保持可能とする全体帯体からなるメモホルダ20が備えられる。すなわちメモホルダ20は、伸縮性を有する帯体からなり、メモ帳19を板状体16の表面部に取着可能とする。さらに前記のように筒状をなす把持片18には、例えば筆記具としてのボールペン21の、クリップ22の部分を矢印Eに示すように挿通し、該ボールペン21が保持されるようにしている（図4参照）。

【0019】

すなわち、把持片18は板状体16をポケット部15内から引き出し、あるいは収納するための把持体として利用できる他、ボールペン、鉛筆などの筆記具の胴部を直接挿通したり、またそのクリップを挿通して止着するペンホルダとしても利用可能とされる。

【0020】

こうして板状体16に対してその表面にメモ帳19が取着された小物入れ本体1は、図1に示すように股部2の外側に取付けられ、この状態において板状体16は常時ポケット部15内に収納される。そして小物入れ本体1を図1に示すように装着してなる作業（人体）が、例えばメモ帳19に対して記入し、記録したい場合、先ず地面に対し小物入れ本体1が装着された側の下肢股部2を立て膝にし（図6参照）、次いで図7に示すように把持片18を摘んでポケット部15より板状体16を引き出すようにする。すると股部2前面側の上部に板状体16が引き出され、メモ帳19が股部2上に支持されることとなる。さらに作業者は図8に示すように引き出されたメモ帳19をめくり、ボールペン21を用いてメモ帳19に記入し、記録することが可能となる。

【0021】

この際、ボールペン21を用いてのメモ帳19への記録は、股部2上で支持される板状体16の上で安定的に行うことができるので、作業においては慌ただしい野外活動（レンジャー活動、救助活動等）の合間において安定した状態で正確に記録作業の実施が可能

10

20

30

40

50

となる。そして記録作業が終了した後は、再びポケット部 15 内に板状体 16 を収納し、図 1 に示す状態で本来の様々な活動（レンジャー活動、救助活動等）に戻ることが可能となり、極めて便利に記録作業を実施することが可能となる。

【実施例】

【0022】

図 9 は本発明の実施例に係る小物入れを示す。この小物入れは、前記実施形態の変形例に係り、前記板状体 16 の表面に小型コンピュータとしての PDA 23 を取付可能とする取付ホルダ 24 A、24 B を備えることとしたものである。すなわち、取付ホルダは PDA 23 の上端部を挿入保持するための上ホルダ 24 A と、矢印 $\theta 1$ 方向に付勢され、回動可能とされる一対の下ホルダ 24 B を備えてなり、下ホルダ 24 B は付勢力に抗して一旦 $\theta 2$ 方向に回動し、PDA 23 の上端を上ホルダ 24 A に保持させた後に下方の隅部を矢印 $\theta 1$ 方向の回動により保持させることで板状体 16 の表面に PDA 23 を取付可能にしている。

【0023】

このように PDA 23 を取付けてなる板状体 16 においても作業者が例えば PDA 23 に入力し、記録したい場合、先ず地面に対し小物入れ本体 1 が装着された側の下肢股部 2 を立て膝にし（図 9 参照）、次いで把持片 18 を摘んでポケット部 15 より板状体 16 を引き出すようにする。すると股部 2 前面側の上部に板状体 16 が引き出され、PDA 23 が股部 2 上に支持されることとなる。さらに作業者は図 9 に示すように入力ペン 25 により PDA 23 の入力画面にペタッチにより入力して記録することが可能となる。

【0024】

この際、入力ペン 25 を用いての記録は、股部 2 上で支持される板状体 16 の上で安定的に行うことができるので、作業者においては慌ただしい野外活動（レンジャー活動、救助活動等）の合間において安定した状態で正確に記録作業の実施が可能となる。そして記録作業が終了した後は、再びポケット部 15 内に板状体 16 を収納し、図 1 に示す状態で本来の様々な活動（レンジャー活動、救助活動等）に戻ることが可能となり、極めて便利に記録作業を実施することが可能となる。なお前記実施形態および実施例においては、下肢のうち右脚の股部 2 に小物入れ本体 1 を取付ける例を説明したが左利きの作業者においては、左脚の股部 2 に取付け、板状体 16 を左脚の股部 2 上に引き出すように形成させてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0025】

本考案に係る小物入れは、レスキュー隊員、海上保安官、自衛隊員などもっぱら野外活動に従事する者がその下肢における股部外側に取付けて利用することができる他、カメラマン、電気工事員、建築土木作業員、測量士などが小物入れとして利用し、かつ記録作業を行うのに極めて高い利便性を備えるものとされる。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】実施形態に係る小物入れを人体の下肢における股部外側に取付けた状態を示す正面図である。

【図 2】小物入れの斜視図である。

【図 3】図 2 の矢印 III 方向から見た小物入れの斜視図である。

【図 4】小物入れのポケット部より板状体を引き出した状態を示す図 2 に対応する斜視図である。

【図 5】小物入れにおけるポケット部の内部を示す一部破断の斜視図である。

【図 6】股部に取付けた小物入れを上方より見た斜視図である。

【図 7】板状体を引き出した状態を示す図 6 と同様の斜視図である。

【図 8】板状体の表面に取付されたメモ帳においてメモをとる状態を示す図 6 と同様の斜視図である。

【図 9】板状体の表面に小型コンピュータとしての PDA を取付し、使用する状態を示す

図 6 と同様の斜視図である。

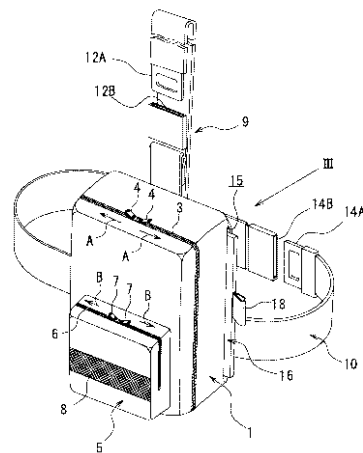
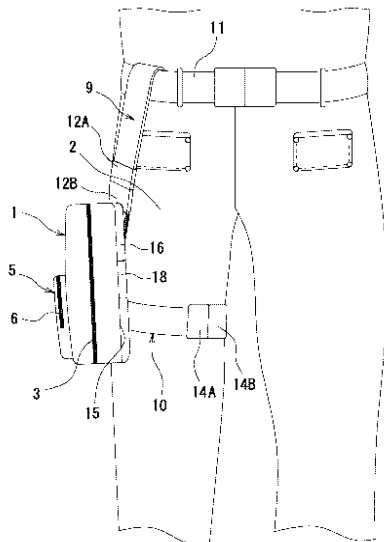
【符号の説明】

【 0 0 2 7 】

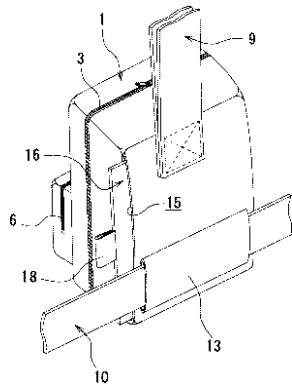
- | | | |
|---------------------|----------------|----|
| 1 | 小物入れ本体 | |
| 2 | 股部 | |
| 3, 6 | ファスナー | |
| 4, 7 | 引き手 | |
| 5 | 小袋部 | |
| 8 | 反射テープ | |
| 9, 10 | 取付バンド | 10 |
| 11 | 腰ベルト | |
| 12 A、12 B、14 A、14 B | 係合体 | |
| 13 | 挿通部 | |
| 15 | ポケット部 | |
| 16 | 板状体 | |
| 17 | 伸縮布体 | |
| 18 | 把持片 | |
| 19 | メモ帳 | |
| 20 | メモホルダ | |
| 21 | ボールペン | 20 |
| 22 | クリップ | |
| 23 | PDA (小型コンピュータ) | |
| 24 A | 上取付ホルダ | |
| 24 B | 下取付ホルダ | |
| 25 | 入力ペン | |

【図 1】

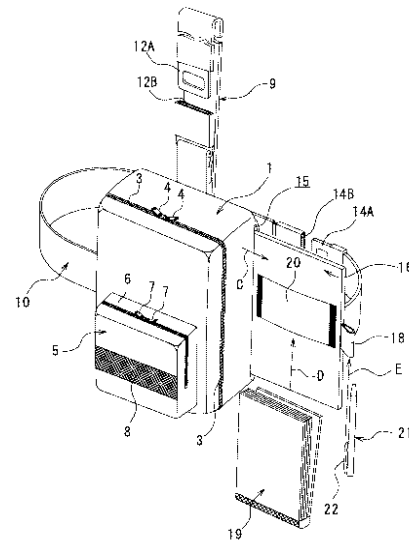
【図 2】



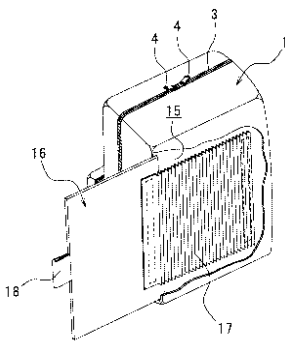
【図 3】



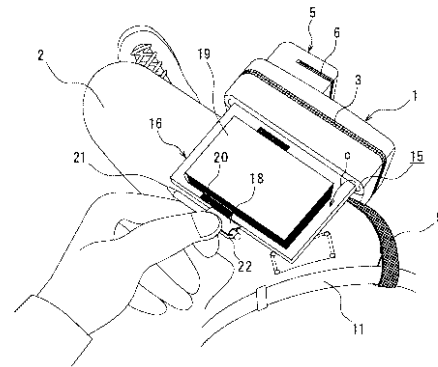
【図 4】



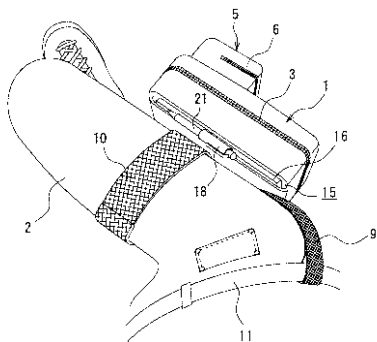
【図 5】



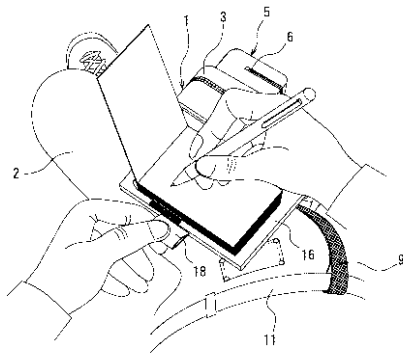
【図 7】



【図 6】



【図 8】



【図 9】

